

グリーンパーク相談所だより 9号

2006年（平成18年）2月26日発行

日本庭園の桃の花



モモ(桃)は邪気を払う、霊力が宿る『霊木』

三月三日は桃の節句、雛祭り。桃の花と菜の花を飾って、女の子の幸せを願う楽しい行事は、中国古代の上巳(じょうしん)の節句までさかのぼります。桃は邪気を祓う霊木として崇拜されてきました。

雛祭りには、女の子の健やかな成長を願う心からモモの花を飾ります。そして結婚や安産のお守りにも用いられました。

中国の霊木・モモはわが国には、弥生時代にすでに渡来しており、数多くのモモにまつわる話があります。古事記ではイザナギノミコトが黄泉の国から鬼に追いかけられたときモモで身を守ったことや、「桃太郎」では生命の象徴でもある、霊力を宿すモモから生まれ子が鬼退治する。また、死を意味す

る『鬼』を祓う「鬼やらい」で豆まきをする節分の起源も中国のモモの信仰が発展したものとされています。

最初に渡来したときは食用であったが、モモを觀賞する兆しは万葉の時代に見られ、万葉集では七首詠まれています。

モモの語源は果実を表す、真(ま)美(み)、燃(も)え実(み)、百(もも)モ(も)があり、古名は毛(け)桃(もも)です。

なお、漢名では桃(タオ)、仙木(逃)に通じ、悪魔・鬼を追い払う意味とされています。

※旧暦の三月三日は新暦では四月初旬で、今年は三月三十一日です。桃の花の咲く頃です。

春の苑くれなみにほふ桃の花
した照る道に出で立つ乙女
大伴家持

春の庭園、真っ赤に美しく咲き誇る桃の花。その木の下までも美しく照り映えた道に出て立っている少女よ。

万葉集より

ももはジュースで本当においしいものではないけれど、果汁にはクエン酸などが多く含まれ、また食物繊維も豊富で便秘解消にも一役かいます。種の中にある桃仁は漢方薬で利用されています。

植物の力

～おいしいだけじゃないもものパワー～



もよいでしょう。あせもやかぶれに効果があります。おいしく食べて、おなかもすっきり。更にはお肌すすべ効果もある大変すぐれもののもです。

奈良時代の歌人。三十六歌仙の一人。大伴旅人の子。地方官を歴任し、越中守のときにこの歌を詠んだ。

庭の桃と李の花を眺めて詠んだと詞書にある。

絵画のような歌で、桃の花と少女の様子が目に浮かぶよう。美しい花と少女を詠うことで、美しさの相乗効果もあるように思われる。

桃の花。見られるのは3月末頃から。

桃の開花は旧暦の「桃の節句」

地方によっては、一月遅れの四月三日(旧暦)にももの節句を行っています。

桃の開花は、今の暦の三月三日の桃の節句にはまだ早く、三月下旬から四月上旬になります。

丁度その頃、グリーンパークの日本庭園では紅白の花が咲く桃の木(源平)や可憐なピンクの花を付ける枝垂れ桃が咲き誇っています。



日本庭園のしだれ桃